

新型コロナウイルス感染症 今、わかっていること



院内感染防止委員会 副委員長
インфекション・コントロール・ドクター (ICD)
安田 考志

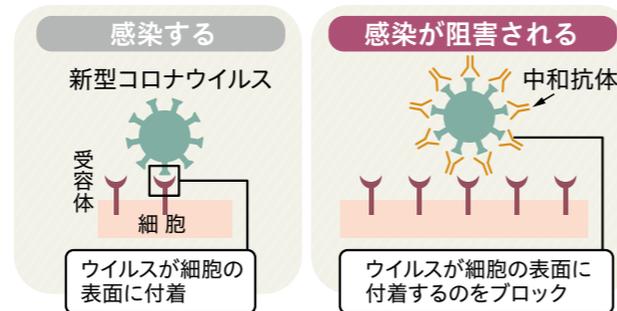
点滴治療で重症化を予防する「抗体カクテル療法」が
2021年11月より**発症予防薬**として国内で初めて承認

中和抗体薬

中和抗体はウイルスの周りを取り囲んで、細胞の受容体との結合を防ぎ、感染できなくします。

抗体カクテル療法 ロナプリーブ

2つの中和抗体薬(カシリビマブ・イムデビマブ)を組み合わせる治療。1回の点滴投与で入院や死亡のリスクを70%減少させ、症状消失までの期間を短縮させます。



発症予防目的で使う場合のロナプリーブ対象者

- 感染者と同居している濃厚接触者や無症状感染者
- 重症化リスクのある人
慢性閉塞性肺疾患 (COPD)、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血管疾患、肥満、喫煙
- 新型コロナワクチン接種歴がないか、効果が不十分と考えられる人

上記いずれも満たすことが条件

期待の高まる飲む抗ウイルス薬

米メルク社は、新型コロナウイルス感染症治療薬『モルヌピラビル』が「治験で入院または死亡を50%軽減させた」と発表しました。早ければ日本でも2021年内に緊急承認される可能性があります。モルヌピラビルは口から飲むカプセルの薬で、自宅で内服できることが長所です。自宅療養の方も処方されれば服薬可能です。



3回目のワクチン接種

なぜ3回目のワクチン接種が必要なのか

2021年11月時点で国内の約75%の人が2回目の接種を完了しているにもかかわらず、新型コロナに感染してしまう**ブレイクスルー感染**が相次いでいます。

3回目を接種するのは右図のように、時間とともに薄れた予防効果をもう一度高めて、ブレイクスルー感染を防ぐためです。加えて、新たな変異株に対する重症化リスクを下げる目的もあります。

気になる3回目接種の副反応

海外からの報告によると、副反応はおおむね1回目や2回目接種と同等か低い頻度で発生し、症状にも大きな違いはないようです。

- ファイザー社** → 2回目と比べて副反応の頻度は同程度もしくは低い
→ 注射部位の疼痛、倦怠感、頭痛、筋肉痛、関節痛など、軽度から中等度
- モデルナ社** → 過半数に疼痛、倦怠感、頭痛、関節痛など、軽度または中等度
- アストラゼネカ社** → 1回目接種より少なかった

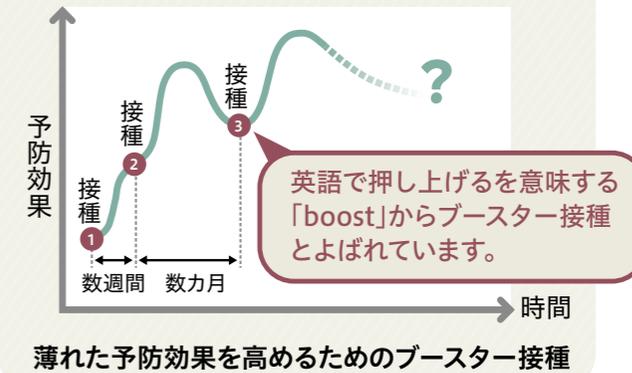
ワクチン接種後も



といった基本的な感染対策を続け、接種可能な人は3回目の接種をご検討ください。

ブレイクスルー感染の原因と予防効果の経過

- ワクチンの発症予防効果が100%でない
- 変異株によりワクチンの効果が低下する
- **接種後、時間が経てば予防効果が徐々に薄れる** などが考えられます。



※2021年11月末までの情報をもとに作成